



**VANTELIN
KOWA**



**SUPER
FORMULA
RACE REPORT**

Rd.1 @Twinring MOTEGI

TEAM
TOM'S

予選 | レース内容

TOM'S

8月30日 (日) / 来場者4,800人

天候：晴れ時々曇り・ドライ / 気温：34-33℃ / 路面温度：41-38℃

新型コロナウイルスの影響で大幅にスケジュールが変更された国内トップフォーミュラシリーズ、全日本スーパーフォーミュラがようやく開幕した。ツインリンクもてぎを舞台にして日曜日に予選と決勝を行うワンデーレースで開催された。これも、サーキットでの滞留時間をできるだけ少なくする、【コロナ対策】。また、同シリーズは、政府方針に従って上限5,000人までの観客入場を試みた。中嶋一貴は、世界耐久選手権（WEC）にも参戦中のため、外部との接触を最大限絶つべく、走行時以外は持ち込んだキャンピングカーで一人で過ごした。中嶋は5番手、3列目のスターティンググリッドを奪取。ディフェンディングチャンピオンのニック・キャンシディは、Q2敗退、11番目、6列目から35週の決勝をスタートする。



- Q1はA、Bグループに分かれて行われた。
- ニック・キャンシディがAグループ。中嶋一貴がBグループでQ1を走行した。
- 今シーズンから1イベントで供給されるニュータイヤは、3セット。各セッションで全てニュータイヤを投入してアタックを行った。
- キャンシディが5番手、中嶋が4番手で共にQ1を突破した。
- Q1は各グループの上位7番手まで、計14台がQ2へ。Q2は上位8番手までがQ3に進出できる。
- 中嶋は、7番手でQ3進出を果たした。しかし、ディフェンディングチャンピオンのキャンシディはQ2突破ならず11番手となり、ここで予選を終えてしまった。
- Q3進出を果たした中嶋は5番手。3列目のグリッドから決勝をスタートする。キャンシディは、6列目からのスタートとなった。

Driver	Car No.	Q1	Q2	Q3
ニック・キャンシディ	1	P5 1'32.246	P11 1'31.763	-
中嶋一貴	36	P4 1'31.719	P7 1'31.667	P5 1'31.603

8月30日 (日) / 来場者4,800人

天候：晴れ時々曇り・ドライ / 気温：34-33℃ / 路面温度：41-38℃



中嶋 一貴

36号車ドライバー

今回、WECのベルギー、SPA-フランコシャン戦を終えて帰国し、多くの関係者の皆様のご協力によってスーパーフォーミュラ開幕戦の出場が叶いました。ありがとうございます。サーキットでは、新型コロナウイルス感染拡大防止のために、できるかぎり外部との接触を断ち、走行時以外は、一人キャンピングカーの中で過ごし、エンジニアとのコミュニケーションはリモート形式でマシンセッティングなどのディスカッションを進めています。でも、この形式も違和感なく快適に過ごしています。金曜日の練習走行から流れが良く、各セッションを進めてくれました。しかし、Q2では、Q1で上位だったチームの2台がミスをしたのでしょうか、下位に沈んだおかげで突破できた感が強いので、ラッキーだったですね。結果として、5番手グリッドを得ることはできましたが、ポールポジションをゲットした亮（平川）のタイムはすごいですね。あのタイムは、ちょっとわれわれには見えないかな。決勝は、35周のスプリントレースですから、スタートを決めて、なんとか順位アップを狙いたいですね。



ニック・キャシディ

1号車ドライバー

土曜日までセットアップがあまり良くなくて、タイムが出なかったのだけれど、日曜の朝に行われた練習走行でようやく良いセッティングを見出しタイムアップできた。しかし、予選になると、まだ不安が残る部分、グリップ不足があって、僅差でQ3に進出できなかった。Q3で走行できたのなら一貴（中嶋）と同じくらいのポジションには行けたのだろう。ようやく開幕したトップフォーミュラレース。これまでの走行時間も少なく、セッティングに費やす時間が足りなかった。マシンのバランスは決して悪くないのだけれど、タイムアップするためには、足りない部分がある。スピード、グリップが足りなかった。しかし、もてぎにおける自己ベストタイムが出ているので嬉しさもある。11番手からのスタートでどこまで追い上げられるか。まずは、スタートで前に出られないともてぎでは厳しい。できるだけポイントゲットできるようにベストを尽くすだけ。



大立 健太

36号車エンジニア

今シーズンから中嶋一貴選手のマシンを担当させていただきます。走行初日に少しセッティングを変更しましたが、そこからの流れは良く予選に臨んだのですが、結果としてはまだ足りない部分があったかと思います。一貴選手とは対面でディスカッションすることは許されないでライン電話やリモートワークで使われるアプリケーションを用いて画面上でデータを見たりしながらセットアップを進めました。自分にとっても初めての経験でしたが問題はなかったですね。ポールの平川選手のタイムまで行けたかどうかは疑問ですが、もっと近づけたかなと、セッティングを一步進められたらタイムアップをしていたかなと思います。決勝に向けてもユーズドタイヤの感触は良いので最終的に状況に合わせた微調整をして決勝に臨みます。

8月30日 (日) / 来場者4,800人

天候：晴れ時々曇り・ドライ / 気温：34-33℃ / 路面温度：41-38℃



小枝 正樹

1号車エンジニア

練習走行の段階からあまり状態は良くなかったのですが、大きくセッティングを変えるというよりも、細かなアイテムを調整しつつ予選の朝を迎えて、それでなんとかバランスが良く安心しましたが、予選はすぐシビアでほんの少しのタイム差でQ3へ進出することができなかった。セッティングの進め方が良くなって申し訳なかったと思います。一つのセッティングの方向に固執し過ぎたかなと思います。これは反省点ですね。グリップ不足を補えるポイントを見つけ出せなかった、それがQ3進出をさせてあげられなかった。セッティングをどうするかを中心に時間を取られていたのでロングランがチェックできていません。決勝は出たと勝負の感が強いです。他のドライバーがロングランをしている様子はチェックしていますが、路面温度が高温ですから、周を重ねるとラップタイムがかなりダウンしていました。タイヤの使い方は重要ですね。そして、スタートで前に出ることですね。



東條 力

チーフエンジニア

まず、一貴選手は走り出しから調子が良く、持ち込みのセッティングがOKだったということでしょう。しかし、トップのマシンからはタイム差があるので、Q3でセッティングを変えてチャレンジするかということも考えたのですが、ドライバーとエンジニアと話し、そのままQ3に送り出しました。ポールポジションの平川選手は速かった。その点ではうちに足りない部分がありますね。ニックは、練習走行の段階から思うようにセッティングが決まらなまま進んできてしまった。バランスは悪くないけれど、グリップが足りない、結果としてスピードが足りない。もっと違った方向のセッティングを試しても良かったかなという反省があります。昨年でもてぎ戦は同じような時期に行われているので、データがありますが、路面温度がかなり高いのでタイヤのグリップダウンの可能性があるのでタイヤマネジメントが重要です。そしてスタートで前に出ることは必須です。



舘 信秀

チーム監督

一貴は、走り出しから良く、今シーズン初のスーパーフォーミュラでもさすがベテランという味を出してくれた。外部との接触を最大限絶って一人でキャンピングカーで過ごしていて、快適そうなので、これも好材料だったのかもしれない（笑）。一方のディフェンディングチャンピオン、ニックは苦労している。当然Q3進出は確実と思っていたのに、ほんの僅かでQ2敗退、相変わらず国内トップフォーミュラの世界は厳しい。目標は1-2フィニッシュだけれど、予選結果はそれは、本当に難しい状況だから、できる限りポジションを上げて、できるだけ多くのポイントを獲得することが重要だ。

決勝 | レース内容

TOM'S

8月30日 (日) / 来場者4,800人

天候：晴れ時々曇り・ドライ / 気温：40-38℃ / 路面温度：46-47℃



- 予選が終了してから約2時間後に決勝が行われた。気温は一気に上昇、40度を記録した。
- 中嶋は、スタートでポジションをひとつアップ。その後もオーバーテイクシステムを使用してポジションアップを試みた。
- キャシディは、スタートに失敗。1コーナーから2コーナーで集団に埋れて順位を下げってしまった。しかし、その後にポジションを回復、1周目は、10位でホームストレートに戻ってきた。
- 2台のレースペースは、安定していたが、サーキットのキャラクターとしてタイム差があっても追い抜くまでに至らない状況が続き、苦しい展開となった。
- 35周のスプリントレースだが、路面温度が高く、タイヤマネージメントに細心の注意をはらってレースペースを保つ展開となった。
- レースの中盤以降にトラブル、アクシデントで戦列を去るドライバーが出てきて、キャシディは順位を上げ、終盤に向けてタイムをアップしていった。結果として彼のレース中のベストタイムは最終周に記録された。
- 中嶋は、4位フィニッシュして8点。キャシディは6位、5点を獲得して初戦を終えた。

Driver

Car No.

Race / Fastest Lap

ニック・キャシディ	1	P6 1'35.752
中嶋一貴	36	P4 1'36.347

8月30日 (日) / 来場者4,800人

天候：晴れ時々曇り・ドライ / 気温：40-38℃ / 路面温度：46-47℃



中嶋 一貴

36号車ドライバー

今シーズンは、タイヤもワンスペック、ピットインの義務もないので、スタートが最大のチャンスと思っていたところ、ひとつ前のポジションの大湯選手がスタートに失敗。サッシャ（フェネストラズ）もポジションを下げていたのでなんとかオーバーテイクシステムを使って1周目のうちにパスしたかったのですが、背後に雄飛（関口）が来ていたので、攻めるばかりでなくて自分のポジションを守らなくてはならないという忙しい1周目でした。また、サッシャが最終コーナーでミスしたので、その時もチャンスでしたが、結局パスできなかった。上位陣のペースは決して良くなくて、路面温度が高かったのでタイヤを労っていることがわかり、自分もペースをコントロールして終盤で勝負をかける作戦に出たのですが、そのままの順位で終えてしまいました。今シーズンは、同じレースフォーマットで行われると聞いているので、予選の重要性がこれまで以上に高いシーズンですね。



ニック・キャンディ

1号車ドライバー

なんとか決勝日の朝の練習走行でマシンのセットアップが良くなった。決勝に希望が持てるようになった。しかし、スタートが悪く、ポジションダウンしたのをなんとか戻して、その後は、淡々と走行したレースの前半だった。ペースは悪く無かったと思うのだけれど、もてぎのサーキットキャラクターでは抜きにくい。それがはっきりと出たレースだった。自分のレースキャリアの中でも最も退屈なレースだった。ファンやスポンサーの皆さんに申し訳ないと思っている。でも気持ちはポジティブ。ちゃんとポイントを獲得できた。今シーズンは有効ポイント制なので、貴重な5ポイントだと思っている。第2戦は岡山。このサーキットはもっと予選順位が決勝に影響するだろうから、もっと良いセッティングをして、もっと上位でフィニッシュしたい。



大立 健太

36号車エンジニア

一貴さんがスタートでポジションを上げてくれましたが、その後は前のマシンに接近するとダウンフォースが抜けてしまって、それ以上の接近が無理になり、ついたり離れたりを繰り返した展開でした。決勝直前の8分間の走行で2番手タイムをマークしているので、それが本来のパフォーマンスかなと判断していますが他車と接近するとその速さが発揮されることができませんでした。タイヤのマネージメントは、全て一貴さんにお任せして、こちらからは、前後のギャップとトップのマシンのレースペースを知らせていました。前を走行していたマシンたちもかなりペースをコントロールしていて、終盤でもラップタイムが落ちませんでした。今シーズンは、予選のポジションが決勝に大きく影響するので次戦ではそれを重視したいと思います。一貴さんと話していて、<ここだ>という改善点もわかっているのでそれを試してみます。

8月30日 (日) / 来場者4,800人

天候：晴れ時々曇り・ドライ / 気温：40-38℃ / 路面温度：46-47℃



小枝 正樹

1号車エンジニア

ラッキーでした。ニックにしては珍しくスタートを失敗したのですが、1周目のうちにポジションを戻してくれました。その後はタイヤを相当セーブし周回を重ねていましたね。結果的にセッティングが決まらないまま送り出したのは申し訳なかったのですが、その状況の中で耐えてくれて6位フィニッシュしてくれました。レースペースは決して悪いものではなかったのですが、やはり、もてぎは前のマシンを抜くのは本当に難しかったです。週末を通じて、ニックに気持ちよく走行してもらえるセットアップができなかったのは、本当に申し訳なかったです、大反省です。次戦まで約1ヶ月あるので、温度、路面温度のコンディションは大きく変わる可能性はあるので、また違った展開が予想されるのですが、それ以前にベーシックなセットアップをもっと良くしないとイケません。努力します。



東條 力

チーフエンジニア

2台ともにレースペースは良かったと判断しています。ニックの前に行く福住選手が最も良く、次にニックだったと思います。しかし、集団の中での走行は速くても順位アップが難しい。タイヤのマネージメントもう良かった。それが結果として最終ラップでのベスト、ファステストタイムにつながっています。一貴がスタート直後のチャレンジをしたのですが、サッシャ（フェネストラズ）を抜かず、引き続一貴にガンガン責められていたのでサッシャが最終コーナーで失敗。しかし、抜くまでには至らなかった。その後は、ペースを保って展開の変化を期待していたのですが、何も起こらなかったということですね。今シーズンは、同じレースフォーマットで行われるので、予選の重要性が再確認された開幕戦でした。



舘 信秀

チーム監督

本当に暑い、真夏の開幕戦だった。一貴は表彰台に届かなかったけれど、スタートでポジションをアップしてくれた。ニックにはスタートで大きくポジションアップしてくれることを期待していたのだが、逆にスタートを失敗してしまったようだ。彼がスタートをミスするのは珍しい。それだけ入れ込んでいたのかな。一貴、ニック共に結果としてポイントゲットできたのは良かった。特にニックは、1周目にポジションを戻した後は、自身でパスしてポジションを上げることはなかったけれど、タイヤマネージメントに集中して最後まで良いコンディションで走った結果として得られた6位。有効ポイント制なので、ポイントゲットすることは重要なので、優勝できなくともできるだけ多くのポイントを獲得することは重要だ。次戦の岡山はより予選結果が重要になる。